

令和5（2023）年1月31日

令和4（2022）年度第4回栃木県地域公共交通活性化協議会（書面開催）結果概要

○期 間 令和5（2023）年1月13日（金）～1月27日（金）

○形 式 書面

○内 容 (1) 協議事項

ア 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

(2) 報告事項

ア 基礎調査の実施状況について（R5.1月時点）

イ 高校生アンケートの集計結果について

ウ 市町アンケートの集計結果について

【結果要旨】

(1) 協議事項

ア 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

→ 事務局案のとおり了承

【主な意見】

- ・ なし

(2) 報告事項

ア 基礎調査の実施状況について（R5.1月時点）

【主な意見】

- ・ 県内観光地等における宿泊施設の送迎バスも輸送資源に該当し、系統数も多くあると思われることから、調査の中で触れられると良い。（委員）
- ・ 観光入込客数の月次の繁閑を見て、バス運行をより細かに調整するなど工夫できると思う。（委員）
- ・ ICカードのデータ分析結果ではある程度有効な結果内容が示されていると思うが、これらのデータ分析に苦手意識を持つバスやタクシー事業者もいると思うので、分析を継続的に民間に委託し、その結果を交通事業者にフィードバックするなどして運行調整に役立ててもらうのが良いと思う。（委員）
- ・ タクシー事業者のアプリやキャッシュレス対応は早急な対応が必要であり、今後は当該対応の有無で経営に大きな影響が及ぶと考える。運転手が高齢化していることもあり、その導入には行政や民間の丁寧な指導が必要と思う。（委員）
- ・ 宇都宮では、駅周辺の広告を電子パネル化する予定と聞いている。情報の書き換えがスムーズなので、公的な案内と民間の宣伝とで時と場合による使い分けができ、交通案内にも使用可能と思われる。他の市町村でも宇都宮市の利用状況を見ながら導入を検討してはどうか。（委員）

## イ 高校生アンケートの集計結果について

### 【主な意見】

- ・ アンケート結果のとおり、バスロケーションシステムの認知度が低いことは事実であり、市町からPRすることにより利用促進に繋がると思われる。(委員)
- ・ GTFS データを導入することによって、より効果的な利用促進を図ることができると思う。(委員)
- ・ 雨天時に自転車を利用するのは危険だが、バスの本数の関係から利用せざるを得ない学生も多いと考える。事故が起きないように、自転車の多く走る道路には専用路を設けるべきと思う。都心では専用路を設ける幅のない場合、車道に自転車用の矢印を引いて自転車が走りやすいようにしている。これでも十分安全とは言えないが、ドライバーへの注意喚起がされるので一案と考える。(委員)

## ウ 市町アンケートの集計結果について

### 【主な意見】

- ・ 市町村生活交通の課題として、「社会情勢を捉えた柔軟な対応が困難」(参考資料 P6) の意見が最も多い。対策として、乗降数が把握可能なシステムを導入することで解消できるのではないかと。(委員)

## エ その他

- ・ 県と市町の役割分担として、市町を跨るような広域路線については県が支援することになると思うが、そのような路線についても移動ニーズの把握などに努めてほしい。(委員)
- ・ 今回は高校生に着目したアンケートだったが、世代ごと(大学生、社会人、子育て世代、高齢者など)に同じようなアンケートを行ったほうがより県内全体の公共交通の利用率が見えてくるのではないかと。(委員)
- ・ 最近では、都心の中高で鉄道研究会の存在感が大きくなっていると感じる。鉄道研究会に所属する学生は、バスやフェリーも好きなので、こうした県内外の鉄道ファンたちにアプローチしてみてもどうか。彼らは乗る側だけでなく、将来の公共交通の担い手にもなる可能性がある。イベントの企画をする前に、意見交換会などして見てもよいと思う。(委員)